

※ 1 か月あたりの利用者数及び利用時間

サービス名	単位	平成27年度			平成28年度			H27年度とH28年度 実績値増減率 (%)	【参考】現時点 での市内事業所 数	評価と課題
		計画値 (A)	実績値 (B)	B÷A (%)	計画値 (A)	実績値 (B)	B÷A (%)			
居宅介護	人	106	121	114%	109	121	111%	増減なし	17	居宅介護の利用人数は計画値を上回ったものの、利用時間数は計画値を下回っており、実績値も横ばいの状況である。ニーズはあっても満足 of いくサービス提供が出来ていないと考えられる。 (①利用希望が重なりやすい時間帯(夕食前)では、利用者の希望した日時にヘルパーが入れない。②男性ヘルパーが少ない。)
	時間	1,346	1,237	92%	1,384	1,289	93%	4%		
就労移行支援	人	30	29	97%	32	16	50%	△45%	2	特別支援学校卒業後の進路として、一般就労が増えてきている。また、就労移行支援の利用者が減少してきており、事業所としても利用者減により事業継続が難しい状況にある。 主に高等部生徒の一般就労に向けての動機づけをした上で、生徒及び保護者に対し就労移行支援事業の役割と認識してもらう必要がある。
	人日	474	404	85%	506	197	39%	△51%		
就労継続支援 (B型)	人	221	244	110%	245	247	101%	1%	15	実績値については、概ね達成できているが、障害特性にあった支援者のスキルアップが必要である。
	人日	3,912	3,914	100%	4,337	4,064	94%	4%		
短期入所	人	42	85	202%	45	89	198%	5%	9	利用人数、延利用者数ともに計画値を上回っている。ただし、但馬内に重症心身障害児・者の受入施設はあっても、利用につながっていない状況であり、豊岡病院では平日の昼間のみ利用可能となっているため、土日祝及び夜間も使用できるよう協議を進めていく必要がある。
	人日	185	313	169%	198	324	164%	4%		
共同生活援助	人	73	84	115%	85	89	105%	6%	8	実績値は達成しており、市内のグループホーム数も増加している。グループホームが最終的な住まいではなく、単身生活へ移行するための中間施設として、機能を持つことが必要である。
施設入所支援	人	121	123	102%	121	118	98%	△4%	3	入所者の高齢化、重度化により、地域移行が進みにくいと考えられる。
地域移行支援	人	8	9	113%	8	5	△44%	△44%	5	県主催の地域移行・地域定着支援会議で挙がってくる地域移行の対象者が少なくなっている。 入院からの移行はあるが、施設からの移行人数が少ない。
地域定着支援	人	8	5	63%	8	10	100%	100%	5	平成27年度に地域生活に移行された方が、引き続き地域定着支援を利用されたことが、平成28年度の地域定着支援の計画値を上回った主要因だが、地域移行支援利用の方以外にも、単身で緊急時の支援が出しにくい方もあり、今後ニーズが高まってくる可能性がある。
児童発達支援	人	105	77	73%	108	90	83%	17%	7	北但広域療育センターに集中しており、就学前児童(5、6歳児)の利用希望者の増加により、当該施設での受入が困難となっている。重症心身障害児の受入れ先が少ない。
	人日	189	182	96%	194	212	109%	17%		
放課後等デイサービス	人	135	125	93%	147	137	93%	10%	8	夏休みなど長期休暇中の利用希望者が多く、ニーズに応じた受入が困難となっている。 重症心身障害児の受入に対してもニーズに対応できていない。
	人日	540	672	124%	588	719	122%	7%		
保育所等訪問支援	人	6	6	100%	6	7	117%	17%	1	月1回利用の受給者証を出しているが、平均の利用は年1回程度の利用であり、利用実績が少ない。
	人日	25	7	28%	25	9	36%	29%		
理解促進研修・啓発事業	有無	有	無	—	有	有	—	—	—	障害や障害のある人、特に外見ではわかりにくい障害に対する市民意識の向上に向けて、広報・啓発活動を効果的に進める必要がある。
基幹相談支援センター等機能強化事業	有無	有	有	—	有	有	—	—	—	地域の相談支援体制の強化を図る。(相談支援専門員の確保と人材育成の支援)